

青葉城恋唄に想う

青葉城恋唄は、シンガーソングライターのさとう宗幸のデビュー曲です。

昭和52年ごろNHK-FMのDJであったさとう宗幸の下にリスナーの星野船一から寄せられた詩にさとう宗幸が曲をつけて生まれた。

歌は、青葉城（仙台城）の城下町仙台の街の美しい情景と切ない恋情を綴った失恋の叙情詩である。

1978年の宮城沖地震の復興ソングとして支援され大ヒットとなった。

そして2011年3月11日に起こった東日本大震災の復興支援の中でも再度取り上げられた。さとう宗幸は昭和24年生まれで、現在63歳。

青葉城は伊達正宗が築城した江戸城に次ぐ大きな城であったが、空襲で焼失した。今は城跡を残すのみだが、青葉山の杜と近くを流れる広瀬川が市民憩いの場となっている。

百万都市の仙台市内を流れる広瀬川は、アユや溪流魚のヤマメが釣れる清流である。



作詞：星野船一 作曲：さとう宗幸 編曲：今村康

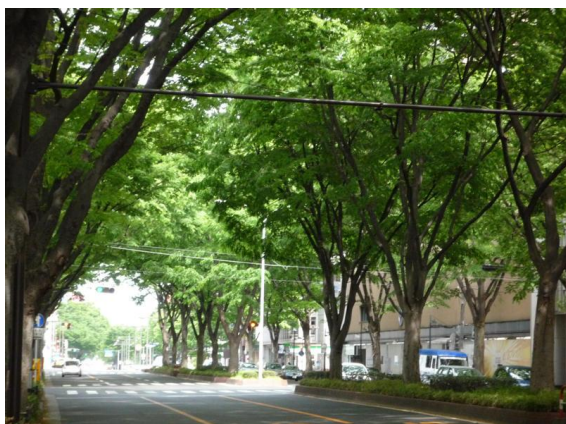
広瀬川流れる岸边 思い出は帰らず
早瀬(はやせ)躍(おど)る光に 揺れていた君の瞳
季節(とき)はめぐり また夏が来て
あの日と同じ 流れの岸
瀬音(せおと)ゆかしき 杜(もり)の都
あの方は もういない

七夕の飾りは揺れて 思い出は帰らず
夜空輝く星に 願いをこめた君の囁(ささや)き
季節(とき)はめぐり また夏が来て
あの日と同じ 七夕祭り
葉(は)ずれさやけき 杜(もり)の都
あの方は もういない

青葉通り薫る葉緑 思い出は帰らず
樹(こ)かげこぼれる灯(ともしび)に ぬれていた君の頬
季節(とき)はめぐり また夏が来て
あの日と同じ 通りの角(かど)
吹く風やさしき 杜(もり)の都
あの方は もういない

季節(とき)はめぐり また夏が来て
あの日と同じ 流れの岸
瀬音(せおと)ゆかしき 杜(もり)の都
あの方は もういない

仙台駅から青葉城まで青葉通りで一直線、徒歩約 20 分ほどの距離である。青葉通りはケヤキの並木が続くけやき通りで、「かおる葉緑」の歌詞があてはまる。



青葉通り(ケヤキ並木)



青葉城跡

青葉城跡の杜にも木々があふれ、「葉ずれさやけき」の歌詞のように葉ずれの澄んだ音色が聞こえてくるような静けさである。

一方、仙台は 8 月の七夕祭りで有名である。仙台市内の商店街は、色とりどりの七夕飾りで埋め尽くされる。



言葉の解説

- ・ 杜：樹木が多く、こんもりと生い茂った所、特に神社を囲む木立【鎮守の杜】
- ・ 瀬音ゆかしき：川が浅瀬を流れるときの音が懐かしい
- ・ 葉ずれさやけき：葉ずれの音がすがすがしく、清らかに聞こえる

(文責 江川猛)